

## 閉会の辞

|     |   |
|-----|---|
| 雑誌名 | 南方海域調査研究報告=Occasional Papers  |
| 巻   | 12  |
| ページ | 57-57   |
| URL | <a href="http://hdl.handle.net/10232/16207">http://hdl.handle.net/10232/16207</a> |

## 閉 会 の 辞

本日はおそくまで有難うございました。南方海域研究センターの井上でございます。略して南海研センターと申しますが、これが鹿児島大学に発足したのは昭和56年4月1日、現在で4年半と非常に歴史の浅いセンターでございます。本日は米盛先生、松田先生の御企画によりましてこのシンポジウムが開かれたわけですが、時間の都合で御発表・御議論もかなり制約されたことと思います。これを契機に第2弾、第3弾のシンポジウムが持たれたら、これに過ぎる幸はないと存じます。本日の記録は諸先生の協力を得まして、南海研の研究報告として出版させていただく積りです。

ところで南海研と申しますと、海だけを対象にしていると思われがちですが、専任教官4名と学長発令による全学からの兼務教官約100名は様々の専門分野に分れております。

毎年のように練習船を利用して、南方各地で水陸総合調査を行いますが、その他にも各種の研究活動に従事しております。シンポジウムの開催もこれで8回目を迎えましたが、例えば海の場合では「熱帯水域の有毒魚介類」とか「藻類」、人間関係では「熱帯と肝臓病」とか「パプアニューギニアの食糧と栄養」などとなっております。

今後も私共は鋭意努力していく覚悟でありますので、皆様の御理解と御支援の程を心からお願いする次第でございます。

簡単でございますがこれをもって閉会の辞とし、皆様の御協力に厚くお礼申し上げます。

南方海域研究センター 井上 晃 男  
センター長